

石川県立看護大学

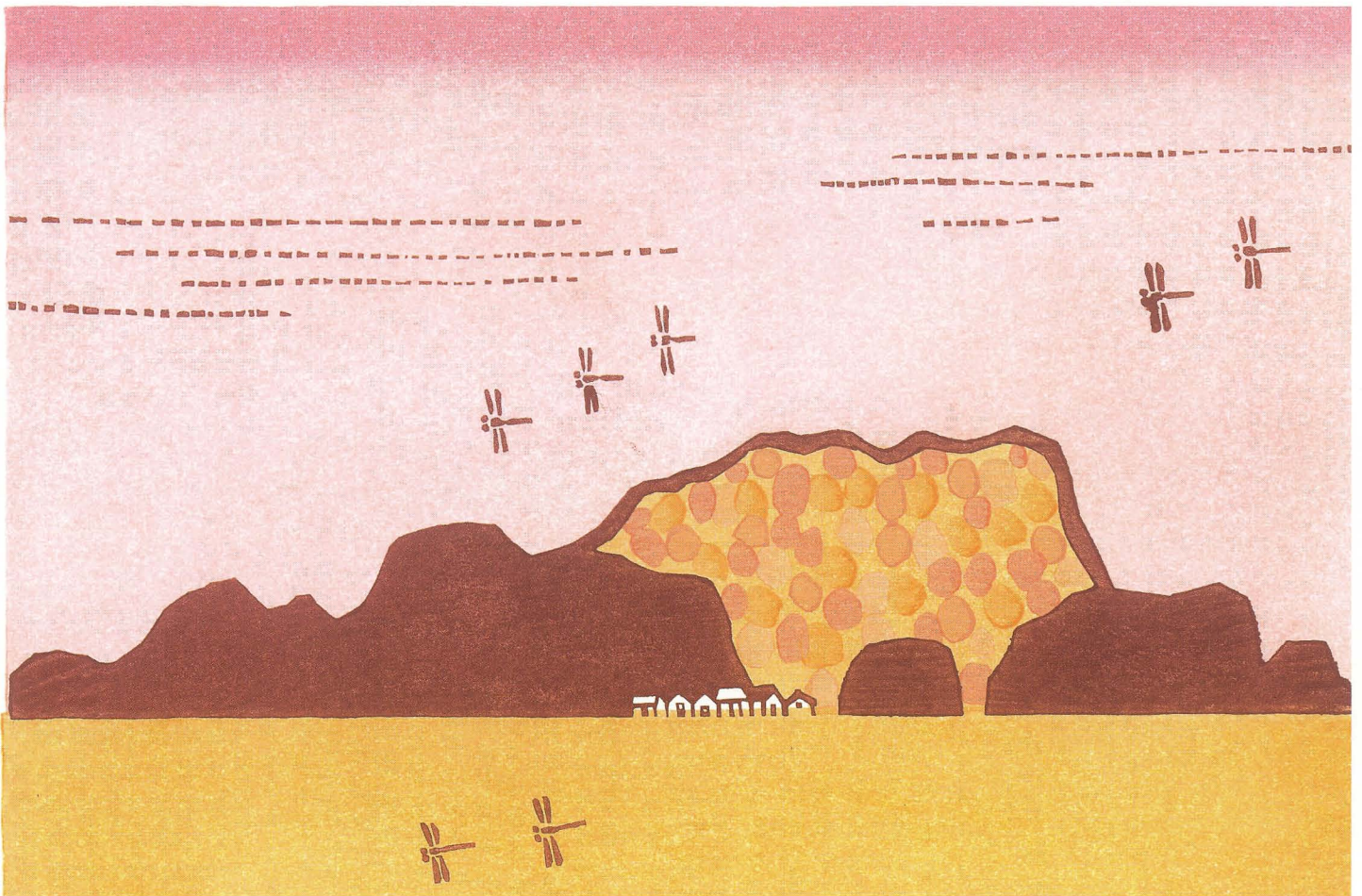
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

IPNU

キャンパスネット



2003.10 OCT. Vol.4



『とんぼ』
木版画／谷内 たにうち まさと 正遠 (津幡町在住版画家)

目次

大学の主な動き	2～4	キャンパスライフ	6～7
第4回入学式	2	フィールド実習	6
夏期アメリカ看護研修の新設	2	基礎看護学実習Ⅱ	7
フィールド実習	3	大学院看護学研究科の開設	8
オープンキャンパス	4	「県立看護大インターチェンジ」・ 「看護大学通り線」の開通	8
球技大会	4		
講座紹介	5		
地域・在宅・精神看護学講座	5		



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

看護学部 看護学科

〒929-1212 石川県河北郡高松町字中沼ツ7番1

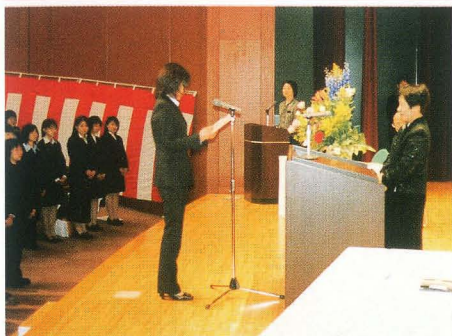
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319

URL <http://www.ishikawa-nu.ac.jp>

E-mail office@ishikawa-nu.ac.jp

大学の主な動き

第4回入学式



平成15年4月7日(月)、本学講堂において第4回入学式が行われ、92名(女子85名、男子7名)の皆さんが気持ちも新たに入学されました。新入生を代表して安田美穂さんが宣誓、金川学長は「看護学の目的を十分に認識し、問題解決能力や倫理観を養ってほしい」と訓辞し、谷本正憲知事は「人の痛みが分かる看護職を目指してほしい」と挨拶、来賓の高島秀雄後援会会長からも祝辞をいただきました。



夏期アメリカ看護研修の新設

いよいよシアトルにおける学生の短期留学プログラムが始動！

平成15年3月にワシントン大学看護学部と当大学との間に学術交流協定が結ばれたことを受け、いよいよシアトルにおける国際看護プログラム「夏期アメリカ看護研修」の実施が現実のものとなります。

本プログラムには、大学で受ける講義のみでなく、様々な形態の学習を組み込みました。たとえば、多岐に渡る施設の見学や施設での看護体験がおこなわれます。利用施設としては、ワシントン大学の付属病院であるメディカルセンターや保健センター、高齢者施設、エイズ患者やがん患者のための非営利施設などが予定されています。また、施設見学に先駆けて、施設に関連する内容の講義



を大学で講師から受けることで、知識と体験を組み合わせることで米国の看護を学べるように計画しています。さらに現地でのホームステイをプログラムに組み入れることで、米国の文化により深く親しめるものになりました。

本プログラムは、学生の自己成長を目指した主体的な学習態度を養うことのできる素晴らしい内容だと思います。第1回の出発は平成16年8月です。これから実施に向けた学内における準備学習が始まります。より多くの学生がこの短期留学に参加できることを強く望んでおります。

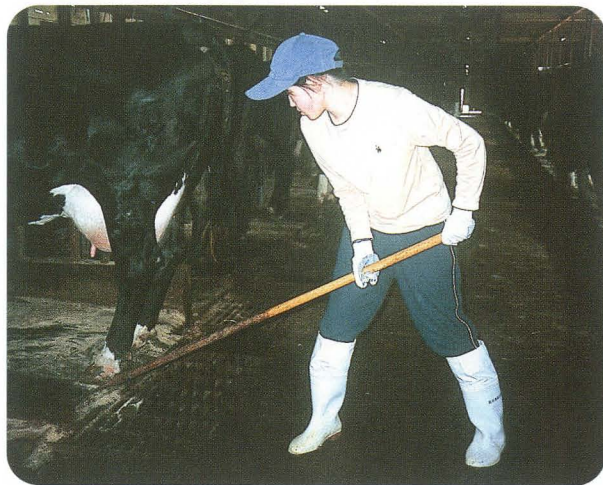


フィールド実習

毎年、1年生と3年次編入生の全員を対象としてフィールド実習が実施される。前期の必修科目のため、入学直後のガイダンスで説明を行い、学生から希望フィールドをアンケートした結果を調整の上、グループ分けをする。この実習の目的は「社会に生活し、職業人として働いている人たちの日常に触れ、様々な生き方や考えについて身をもって学び、人間を生活者として全人的に理解すること」である。したがって、看護学実習の施設とは異なる一般の人が働いている場所が対象である。今年度は7月2日（水）から4日（金）の間の2日間を実習日としたので、それまでに学生自身がテーマを決め、フィールドを選択した。3～4人のグループを1人の教員が担当して、事前の学習やフィールド（施設や場所）との連絡調整について指導するが、主体はあくまでも学生自身である。学生たちは参考図書やインターネットで検索し、それぞれの関係者に目的を説明して実習受け入れを要請した。受け入れ側の事情で、今年は6月20日から8月27日に亘った。

対象フィールドは35ヶ所で、学生たちは旅館、結婚式場、水族館、動物園、牧場、製菓業、給食調理場、新聞社、自衛隊、建築事務所、放送局、消防署、漁業協同組合、寺院、養護施設、空港などへ出かけ、それぞれの場所で実りある体験をし、学んできた。ともに働いて得たものは、職業への誇り、チームワークの大切さ、相手への思いやりなどで、看護の基礎として受け止められている。

学生たちは9月に全体報告会で成果を発表した。この実習を通して、自分たちの視野が広がり、人間として成長したと考察しており、専門の看護学実習が始まる前に行われるフィールド実習は若い脳に良い刺激を与えているようである。



オープンキャンパス

オープンキャンパスは、高校生、受験生に大学のキャンパスまで実際に来てもらい、大学を目で見て、肌で感じてもらうという企画です。受験生と大学の双方にとって有意義な催しとして、全国ほとんどの大学で開催されています。

私たちの大学でも、主に看護系への進学を希望している人たちやその保護者の方々、また高校の先生方に広く本学のことを紹介し、進路を決めるにあたり大いに参考にしてもらいたいとの趣旨で、開学初年度(2000年)から毎年オープンキャンパスを開催しています。

今年は7月19日(土)に第4回オープンキャンパスを開催しました。幸い210名にも上る参加者に恵まれ、盛会のうちに終了することができました。参加者、在學生、教職員が学内の各所で声をかけ合い、時に真剣な眼差しで、時にこやかに語り合う姿が印象的でした。



参加者から寄せられた声には好意的なものが多く、オープンキャンパスに参加してこの大学で学びたい気持ちがさらに強まった

たという声も少なくないので、今後とも教職員と在學生が協力してこの催しをより良いものにしていきたいと考えています。

球技大会

燃えろバレーボールで!!

第3回学生スポーツ大会“燃えろバレーボールで!!”は、平成15年度の自治会・全学アリーナスタッフが丸となって、6月28日(土)成功裡に終了した。前日の準備は2年生が中心となり完璧に……ワクワクしながら当日を待ったが、朝から降りだした雨にやや意気消沈気味。しかし、当日の参加者は、1年生から3年生までの総勢65名!!初めての仲間とチームを組み、協力しながら練習そしてゲームに向かった。応援団として参加した学生も試合に臨む学生も皆、健闘しあう姿には逞しさがあつた。優勝は1・2年生の混合チーム。“和”と記されたトロフィーを手にした。

これからの学生生活、様々な難関が待ち受けているが、“チームワーク”と“燃えるところ”で突破してくれることを期待している。



講座紹介

地域・在宅・精神看護学講座

地域看護

地域社会では、様々な健康レベルにある人々が、互いに支え合って生活を営んでいます。地域看護学では、地域社会で生活を営む、すべての地域住民を対象にした看護援助を学びます。すなわち、地域住民の健康生活上の課題の明確化、あらゆる健康レベルと地域社会・家庭生活の場と生活様式に応じた看護援助、地域ケア支援体制づくりに関わる看護援助を追究します。そして地域で生活しているすべての人々の、生活の質向上に寄与するために、看護専門職として果たすべき役割・機能について提言していきます。

授業は、地域看護学概論、地域看護診断論、地域看護方法論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、地域看護学実習Ⅰ、Ⅱ、地域ケアシステム論を行っています。地域看護学の対象が、「地域そのもの(コミュニティ)」「すべての地域住民」であることから、授業のうち講義・演習では、主に行政に所属して看護援助を提供する看護職、すなわち保健師の実践活動を素材に進めます。併せて、学校保健や産業保健に関わる看護職の実践活動も学びます。

実習では、県保健福祉センター及び地域センターと県内市町村で、その行政機関における保健師活動の実際の場面に身を置いて、地域住民の健康生活上の援助ニーズの把握方法、援助提供の方法を修得していきます。

以上の教育を地域看護学の教員5名で担当し、関連する研究に各自取り組むと共に、現任保健師がより質の高い看護援助提供を実践するための支援にも尽力致します。



後列左から平井絵理助手、高井純子助手
前列左から田村須賀子助教授、金川克子学長、
高藤恵美子助教授

在宅看護

在宅看護学は、5名の教員で在宅看護および家族看護に関する教育と研究、地域への貢献を目指した活動を行っています。在宅看護は平成9年に登場した新しい科目です。慢性疾患や障害を持ちつつ在宅療養を希望する方が多いこと、高齢化や医療費の高騰、家族形態の変化などにより、在宅ケアの必要性が高まっているのです。在宅看護学では、在宅療養者・要介護者・その可能性のある人とその家族を対象として、できるだけ長く質の高い生活を地域で送ることができるための支援を目的としています。

在宅看護学は、1年次は在宅看護学概論、2年次は在宅看護方法論Ⅰ、3年次は家族看護論、4年次は在宅看護方法論Ⅱの授業で在宅看護に必要な知識・技術・考え方を教授した上で、4年次に在宅看護学実習を行っています。これは在宅の場における対象者や対象に応じた援助方法の実際を学ぶためのものです。今年度初めて在宅看護学実習を行いました。在宅の対象者の方々にはこちらが学ばされることも多々ありました。今後も、学生達と共に学内での講義・演習や実習および研究活動等を通してよりよい在宅看護のあり方を探っていくつもりです。



後列左から前田修子助手、水島ゆかり助手
前列左から林一美助教授、高藤好子教授、
伴真由美講師

精神看護

精神看護学は平成9年から看護学教育に組み入れられた専門領域です。社会の急速な変化は精神保健看護の専門的知識を基に援助できる人材を緊急に必要としています。その期待に応えるべく、4人の教員が担当して教育に取り組んでいます。

授業は、精神看護学概論30時間、精神看護方法論Ⅰ30時間、精神看護方法論Ⅱ45時間、精神看護学実習Ⅰ30時間、精神看護学実習Ⅱ90時間の計225時間を必修で、更に地域精神保健看護論15時間を選択として行っています。学内の講義と演習で知識を得た学生は、2年次の後期に作業所や社会復帰施設等へ実習にでます。地域生活をしている精神障害者とはじめて出会い、極めて普通の人々である障害者にお世話になり、自身の偏見を見つめなおす体験をします。3年次の後期には県立高松病院の病棟で実習を行い、受持ち患者さんから多くを学びます。病棟看護師の懇切な指導を受けて、患者―看護師の信頼関係が援助の基礎である事を体得しています。このような教育を中心に、教員は各自の研究と社会貢献にも力を尽くしています。



後列左から谷本千恵助手、林みどり助手
前列左から北岡和代講師、栗田いね子教授

キャンパスライフ

フィールド実習



1年 内田 千恵

今回の、入学してからの初めての实習であったフィールド実習は、私にとってとても大きなものだった。和倉温泉の加賀屋さんで実習をさせていただいたのだが、「相手のために何かすること」の本当の意味を知った。事前に加賀屋さんについて調べたときに、本当にべったりのおもてなしの内容で、少し大げさではないだろうか…などと思ったりもした。しかし実際に行ってみると、それらがごく普通に行われていて、お客様も笑顔で帰路についているのだ。こんなに徹底的にするのは並大抵のことではないな、と感じた。仕事内容は、とても細かくて様々な決まりがある。お出迎いの時のお辞儀の角度や声掛け、客室点検のときの点検表、本当にチェックすることが多い。しかし、客室係の方がたは、それらのことに本当に仕事に誇りを持ってなさっていた。話して下さる一言一言すべてからお客様を思う気持ちが感じられた。その熱さ・熱心さに、私たちも心大きく動かされ、とても感動した。加賀さんに行ってはじめて知ったことだが、加賀さんの共通理念は「ホスピタリティ」である。これを聞いたとき、なぜ病院で耳にするような言葉が使われているのだろうと思った。病院は傷を癒す場所、つまり加賀さんも心の癒しを提供する場所なのだということを表しているを知り、納得した。そして、患者様を相手にする職業同様、接客業もお客様という人間を相手とする仕事であり、その根底にあるものは同じである。この、加賀さんで学んだ、相手を思いやる気持ち、つまりホスピタリティは、看護を行ううえで本当に大切なことだと思う。このことを忘れることなく、看護に向かつての四年間を大切に過ごしたいと思う。



1年 若尾 俊介

私はフィールド実習で牧場へ行った。とても大変な仕事でボロボロになったが、実習を通して学べたことは多くあると思う。牧場の仕事は私の想像をはるかに超えるきつさだった。3時間半しかない睡眠時間、糞まみれの掃除など想像を絶するものだった。そんな中、牧場主さんと話せる機会があり、そこで「牛には愛情はもってもよいが、愛着をもってはいけないと、以前おっしゃったが、最初の牛に愛着を持たなかったのか」とお伺いしてみた。すると、「やはりあった」とおっしゃった。その時私はこの言葉の深さを知った。何度も愛着をもってしまった牛を出荷しているうち、これではいけないと思いこの言葉に至ったのだろう。

私はこの実習を通し、何年も、しかも真剣に働いた人にしか分らない考えを知った。それは牧場の命を扱う職業で真剣にやらなくてはやっていけないという性質からきていると思う。一方看護師も、命を扱う点、また真剣に看なくてはならないという点では同じである。また人間を看るという点では牧場の仕事より大変だと認識している。だからこそ私はいつまでも学び続ける姿勢を持ち続けたい。そうすることで今以上の自分の職業観を見つけるために努力していきたいと思う。

3年 池田 沙矢香



私は「人が働くことの意味」をフィールド実習のテーマに設定し、高松町のぶどう園で、摘心(芽摘み)・除草・収穫の体験、そして販売のための伝票の宛名書きや箱折りなどをしてきました。

このぶどう園の園主は、「夢のようなぶどうを作りたい」という強い信念を持ってぶどうの生産をしています。除草作業は一切農薬を使用せず全て手作業で行い、ぶどうを収穫する時も確実な甘さを消費者に提供するために、一房づつ丁寧に、糖度計で測定してから収穫していました。園主と共に作業を行い、こだわりから生じる苦労は想像よりも大きと感じました。しかし、その結果として自己販売100%という実績や、お客様の喜ぶ表情、「期待して待っていたよ」という言葉が得られ、これらが園主のこだわりを持ち続けることを支え、また夢を追いかけ続ける意欲や生きがいの源となっているように感じました。

この実習を通して、身近な地域について興味を持つよききっかけとなり、また忘れかけていた人の温かさも久しぶりに感じました。園主の謙虚さ・熱意・努力に触れて、テーマに沿った学び以外にも人として学ぶものも多く、楽しくかつ貴重な経験になったと思います。



1年 今方裕子／辻谷雅美／妻由晃枝

私たちは、入学して初めての実習先として、ブリーダーを選びました。ブリーダーは主に犬を繁殖させる人のことですが、それとともに、母体と子犬の健康・衛生などにも気を配られています。この二日間の実習を通して、私たちは様々なことを学びました。私たちは初めのうちは犬たちを商品とする仕事に対してあまり良い印象をもっていません

でした。しかし、ブリーダーさんは単に犬を商品として扱うというよりは、お客様に自慢の犬を提供できるように、犬に愛情を注いで育てておられ、見る目が変わりました。また、単にもくもくと作業を進めるだけではなく、日々、言葉をもたない動物たちとスキンシップをとって健康状態を把握し、信頼関係をも深めているのだということもわかりました。

犬たちの管理は体力が要るだけではなく、経済的な負担もかなりかかります。しかしながら、どのような仕事でも、大変さの中に何らかのやりがいを感じられるものだと思います。私たちも将来、自分の仕事にやりがいを感じられるよう、必要最低限のことだけをこなすのではなく、自分の五感を総動員させて、常に向上心をもって仕事に取り組んでい

基礎看護学実習Ⅱ

2年 中野麻衣



実習を通して、私が最も難しいと感じたことは、コミュニケーションです。私は患者さんと接している時に、ほとんど自分から話し掛けることができず、沈黙が続いてしまい、患者さんが気を使って、自分から色々と話しかけてくださることがよくありました。看護とは患者さんの生命力の消耗を最小限にすることだと学びましたが、患者さんに気を使わせ精神的に疲労させてしまっていたのです。これでは、生命力を消耗させる原因になると感じました。

また、コミュニケーションは患者さんとよい関係を作るためにも大切な手段です。患者さんが心の中で思っていることを打ち明けられるような関係を築くことは、患者さんの求めている看護を提供することにつながると考えます。

私は、この実習で、看護する上でのコミュニケーションの難しさと重要性を学び、私の今後の課題だと思いました。日常生活においても、少しずつでも自分から話し掛けたり、色々な人と話すように心がけ、良いコミュニケーションが取れるようになりたいと思います。

2年 高尾このみ



私はこの実習で本当にたくさんのことを学び、患者さんに教えてもらいました。

まず一つ目は、人の回復力の早さです。2、3日前までベッド上で横になっている事が多く、移動にも車椅子が必要だった患者さんが次の日には、歩いてトイレに行けるようになっていたり、シャワー浴から入浴に変わったり、患者さんの回復のスピードに驚き、戸惑いました。

二つ目は、知識の重要性です。私は受け持ち患者さんの病気を調べたつもりでしたが、それが何らかのケアにいかせる程、深いものではありませんでした。もっと知っていたらもっと患者さんに近づけたのかもしれないと思います。

三つ目は、受け持ち患者さんの退院です。運良く、私達の実習最終日に患者さんの退院が重なり、前日から患者さんも私も興奮していました。患者さんが一日でも早く退院できるようにと、リハビリなど一生懸命なさっていたことを知っていたので、退院できると聞いた時は本当に嬉しかったです。

私はこの実習で「一期一会」ということをとても意識しました。けれど、ああすればよかった、こうすればよかったという後悔がたくさんあります。これから先、悔いの残らない一期一会になるよう頑張っていこうと思います。

● 大学院看護学研究科の開設 ●

現在大学院看護学研究科の設置を文部科学省に申請中で、順調にいけば平成15年11月末に認可され、16年4月には大学院が開設されることとなります。新しい大学院は修業年限が2年の修士課程で、修了者には修士（看護学）の学位が授与されます。定員は10名の予定です。

専攻領域は「健康看護学領域」と「実践看護学領域」の2つの領域で、前者には「看護デザイン」、「コミュニティケア」という2つの研究教育分野、後者には「子どもと家族の看護学」、「成人看護学」、「老年看護学」の3つの研究教育分野があります。健康看護学領域の2分野の名称は全国最初のユニークなもので、実践看護学領域の3分野は人間のライフサイクルに対応する名称になっています。

大学院の人材育成の大きな目標は①高度専門職業人の育成、②看護学教育者・研究者の育成で、①のために4つの特定分野（地域看護学、小児看護学、がん看護学、老人看護学）の専門看護師（CNS）の資格取得が可能な科目が設定されており、②のために看護学教育と研究の基礎となる共通科目、各分野の科目がバランスよく配当されています。正式な募集要項は12月初旬になりますが、前もって受験したい分野の内容等について質問がある場合には、教務学生課（電話076-281-8300）までご連絡ください。

研究科名	課程名	専攻名	募集人員
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	10名

専攻領域	研究教育分野
健康看護学	看護デザイン コミュニティケア
実践看護学	子どもと家族の看護学 成人看護学 老年看護学

● 「県立看護大インターチェンジ」・「看護大学通り線」の開通 ●



平成15年8月8日（金）、能登有料道路県立看護大インターチェンジの開通式が行われました。また、あわせて能登有料道路と国道159号線を結ぶ「看護大学通り線」も開通しました。この開通により、金沢中心部までの所要時間が10～15分程度短縮され、通学、実習等の利便性が向上しました。



発行 ● 石川県立看護大学広報委員会

〒929-1212 石川県河北郡高松町字中沼ツ7番1
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319